

道砂防工事安全施工管理技術研究

5社が安全対策発表

最優秀は官坂の稲船晃氏

道開発局と道砂防工事安全対策協議会は20日、道建設会館で第10回「北海道砂防工事安全施工管理技術発表会」を開き、5社の現場技術者が安全対策を発表した。最優秀賞には「オカバルシ川溪流保全」を施工した官坂建設工業(本社・帯広)の稲船晃氏を選ばれた。

同発表会は砂防現場から災害を撲滅する目的で、発注者と施工者が2001年から始めた。今回は関係者90人が参加し、現場技術者が発表する論文を共有した。協議会の金子正之会長は「砂防工事は気象の影響や急斜面などさまざまな特性を踏まえた安全施

工が求められる」と論文発表の意義を強調し、東日本大震災を教訓に「最近多い集中豪雨だけでなく、突発的な地震への対応を念頭に置き、安全対

策技術の確立につなげてほしい」と期待を寄せた。最優秀賞の稲船氏は、施工中の河川増水対策として水位検知システムや監視カメラ、水中ポンプ



各社の技術者が自社の安全対策を発表した

などを設置し、周囲に被害が及ばないように配慮し、改善点などの課題も明らかにした。

優秀賞は「戸薦別川第1号床固」を施工した西岡建設(本社・帯広)の毛利和徳氏、佳作は「南の沢川外溪流保全」を担当した北土建設(同・札幌)の高津健二氏に決まった。特別講演では道労働局の鎌田修平安全専門官が砂防工事での労災事例を解説し、関係法令の順守を求めた。

北海道砂防工事安全対策協議会等

巨大地震念頭に対策を

安全施工管理技術発表会開く



九十人が参加し、労働災害について理解を深めるとともに、安全施工に関する論文の発表・審査を通し、情報交流と一層の安全技術の向上を目指した。

北海道砂防工事安全対策協議会（金子正之会長）と開発局は、二十日、北海道建設会館で「第十回北海道砂防工事安全施工管理技術発表会」を開催し、写真。約

冒頭、金子会長があいさ

つ。「砂防の現場は急斜面もあり、気象の影響を大きく受けるため、特性を踏まえた施工が必要であり、発注者と施工者がともに安全について考えていくことが重要」などとしたほか、「東日本大震災にふれ、「これまで砂防は突発的な豪雨への対策を重視していたが、巨大地震の活動期に入ったとも言われている。今後は巨大地震をも念頭に置いた災害対策も求められる」などと訴えた。

続いて、道労働局安全課の鎌田修平安全専門官が「労働災害防止について」と題し特別講演。無資格者がクローラクレーンを使用し転倒させた事例などを通し、関係法令や安全対策の

ポイントなどを説明した。このあと、研究発表に移る。昨年度の全砂防現場から寄せられた安全に関する論文から選定した五編について発表・審査した。

川工事課長らが審査し、最優秀賞は宮坂建設工業㈱の稲船晃現場代理人の「オカバルン川溪流保全工事における施工中の河川増水対策について」が獲得した。

開発局建設部の七澤馨河